

STEREO 50

Retro Stereo 50 オールインワン真空管アンプ

iFi Retro Stereo 50

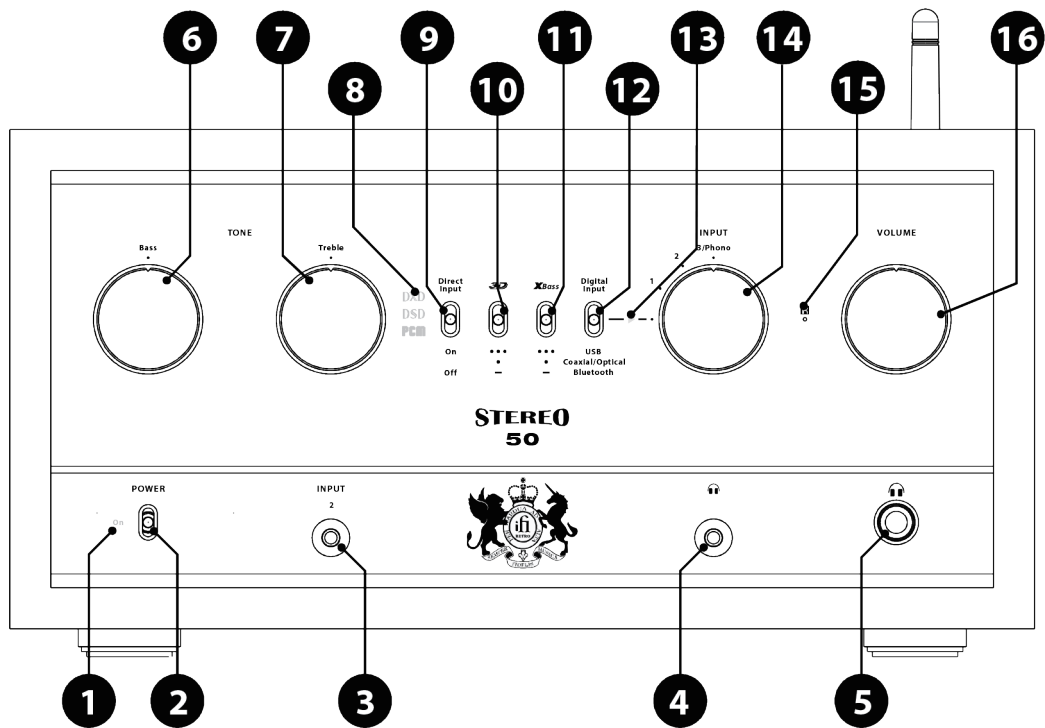
オールインワン真空管アンプ

特徴

- ペアリングに NFC を採用した高品質なワイヤレス Bluetooth (aptX) 接続。長たらしいセットアップは不要です。最高に便利なワイヤレス接続で優れたサウンドを実現します (注: NFC は、ソニーとフィリップスが共同開発し、国際標準規格として承認された、最新の近距離無線通信技術です)。
- 真空管による出力 25W + 25W* (注 1) のアンプです。豊かでオープンな、なめらかなサウンドを再生します。
- 真空管による Turbo 7,000mW ヘッドフォン出力。もっとも手強いヘッドフォンもドライブできます。
- 独自の科学調査によると、真空管アンプはリスナーのストレスを軽減し、音楽を聴いている時の幸福感を増すということがわかっています。** (注 2)
- DSD、PCM、DXD のフォーマットとともに、最先端のデジタル・オーディオ・フォーマットである Octa-DSD512 (24MHz)、PCM768kHz、2xDXD にネイティブで対応。
- 192kHz までの PCM には、ミニマム・フェイズ・ミニマム・リングング・デジタル・フィルターを採用。DSD 及び DXD/2xDXD には、ピュア・アナログ・ノー・リングング・フィルターを採用。これによって、リスナーが疲労感を感じたり、デジタル・サウンドを「アグレッシブ」(その原因は、標準的なデジタル・フィルターのすべて、そして大半のデジタル再生システムが本来持っている高周波のリングングと歪みです) と感じたりする要因が取り除かれます。
- 高解像度の USB・同軸・光デジタル入力。どんなデジタル音源でも、音質が瞬時に向上します。
- ヘッドフォン用とスピーカー用の 3D Holographic Sound System (3D ホログラフィックサウンドシステム)。きわめてオープンな、空間感の正しい音場をスピーカーとヘッドフォンが生み出すことを可能にし、ヘッドフォン使用時に感じられる「頭の中に音場がある」というストレスを低減します。
- 最高の低音を生み出す XBass。人間の聴感に合わせて低域のレスポンスを補正します。
- 幅広いゲイン設定が可能な MM/MC フォノ・プリアンプ。あらゆるカートリッジに対応します。
- スタジオ・グレードの高精度トーン・コントロール。無比の透明性を持ち、精確に、繰り返し調節できます。
- リモンコン付きのアナログ・ボリューム・コントロール。高解像度のオーディオでもローレベルの情報を持続します。

*(注1) 組み合わせたスピーカーに音楽信号を送り、クリッピングが始まる時点で測定。

** (注2) J・アッカーマンの博士論文(2000年、フランクフルト音楽・表象芸術大学)。



1. 電源LED ON/OFF

2. 電源スイッチ ウォームアップ時間: 45秒

3. アナログ入力 3.5mm 背面の「Input 2」と共有

4. ヘッドフォン出力 3.5mm(ノーマル) 高感度の(能率の高い)ヘッドフォン及びIEM(インイヤーマニター)用

5. ヘッドフォン出力 6.3mm(ターボ) 標準的な感度のヘッドフォン用

6. トーン・コントロール(低音用) フォノイコライザーの詳細情報は「フォノ設定」カードをご覧ください

7. トーン・コントロール(高音用) フォノイコライザーの詳細情報は「フォノ設定」カードをご覧ください

8. フォーマット・インジケータ DXD、DSD、PCM ※詳細は「LEDステータス」カードをご覧ください

9. ダイレクト入力 このスイッチをONにするとトーン・コントロールをバイパスできます

10. 3D Holographic Sound System

●●● 左右のスピーカーの間隔が狭い場合(1.5メートル未満)

● 左右のスピーカーの間隔が普通の場合(推奨) (Retro LS3.5を通常のセットアップでご使用の際にお薦めします)

— OFF

11. XBass System

●●● 最大の低域補正(Retro LS3.5をスピーカー・スタンドでご使用の際にお薦めします)

● 中程度の低域補正(Retro LS3.5を通常のセットアップでご使用の際にお薦めします)

— OFF

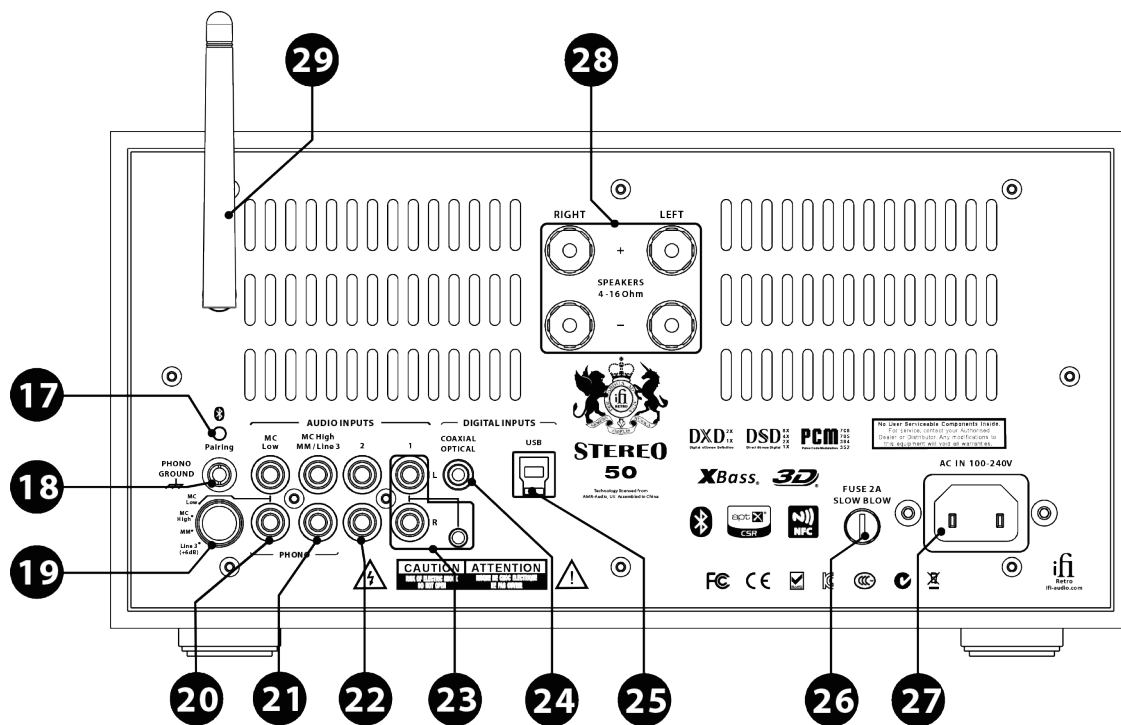
12. デジタル・オーディオ入力セレクター USB、同軸/光、Bluetooth入力を選択

13. ステータス・インジケータ 「LEDステータス」カードをご覧ください

14. 入力セレクター Digital Input Input 1 Input 2 Input 3/Phono

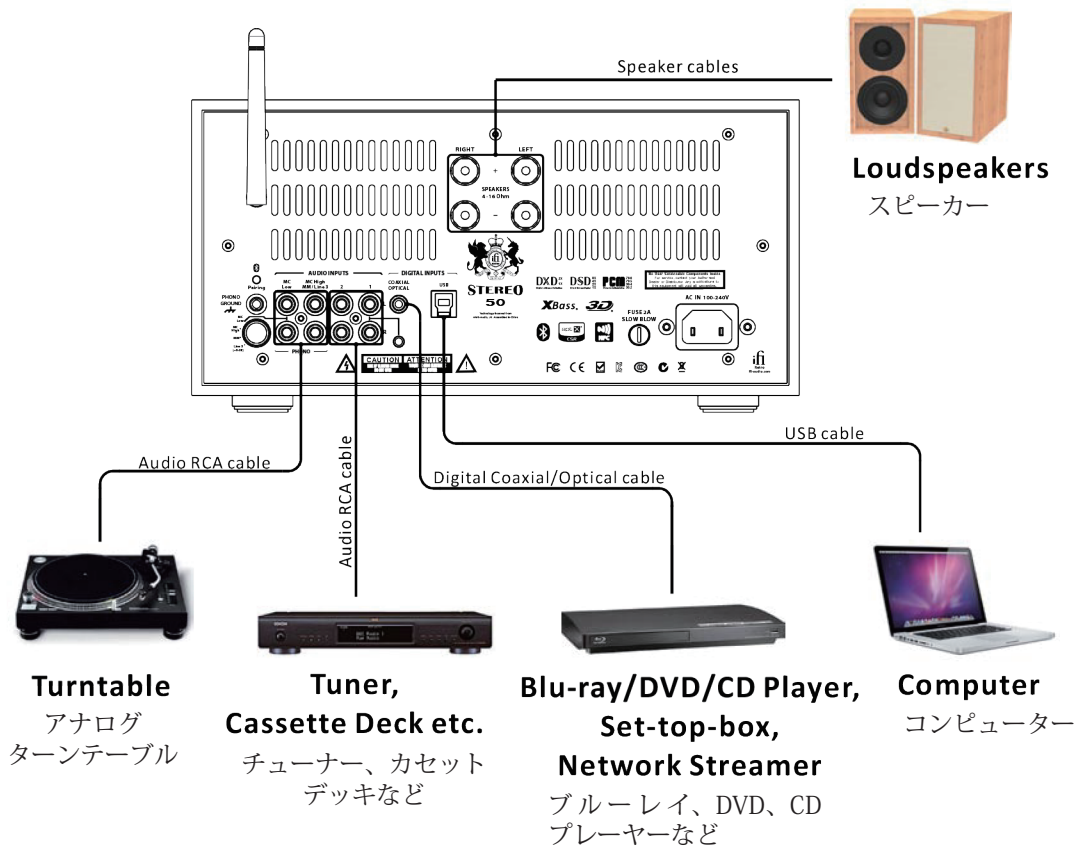
15. リモコン・レシーバー

16. ボリューム・コントロール リモコンでもコントロールできます



- 17. **Bluetoothペアリング・スイッチ** 新しいBluetooth機器をペアリングします
- 18. **フォノ用アース** ターンテーブル(レコードプレーヤー)のアース・ケーブルをここに接続します
- 19. **Line 3のモード・セレクション** 詳細は「フォノ設定」カードをご覧ください
- 20. **MC Low Input** 通常のMCカートリッジを使用する場合はここに接続します
- 21. **MC High/MM/Line 3** 高出力のMCカートリッジ、MMカートリッジ、またはライン出力レベルの機器を使用する場合はここに接続します
- 22. **Input 2** 前面の3.5mm入力と共有
- 23. **Input 1** 3.5mm入力と共有
- 24. **Digital/Audio Input** 同軸/光入力(自動切り替え)
- 25. **USB Input** MAC OSX(10.6以降)はRetro Stereo 50 DACをネイティブでサポートしています。MS Windows(XP以降)の場合は、Retro Stereo 50 DACをコンピューターに接続する前にドライバー・ソフトウェアを以下からダウンロードしてインストールしてください: <http://ifi-audio.jp/download.html>
- 26. **ヒューズ** 2Aスローブロー・ヒューズ
- 27. **電源ケーブル・コネクタ** 100-240V AC
- 28. **スピーカー・ターミナル** 4~16Ωのスピーカーを接続することができます
- 29. **Bluetoothアンテナ** 受信能力を最大限にするには直立してご使用ください

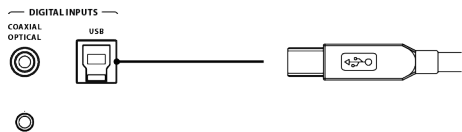
システム接続図



コンピューター

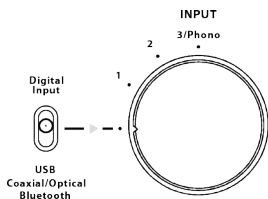
接続方法: USB ケーブル

ステップ 1:



コンピューターに接続した USB ケーブルを iFi Retro Stereo 50 の USB 入力に接続します。

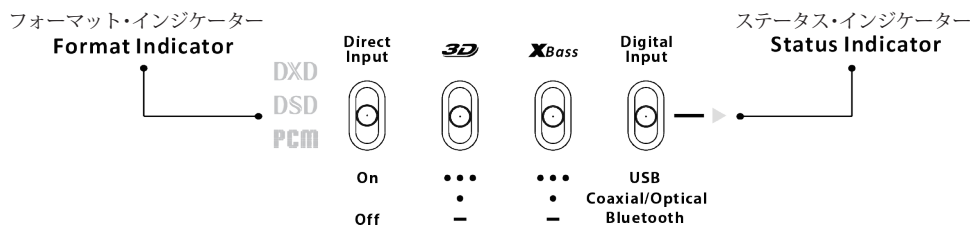
ステップ 2:



入力セレクターの「Digital Input」の「USB」を選択します。

LEDステータス

入力されたデジタル信号のサンプリング・レートが LED で表示されます。



Input	Status Indicator	Status	Format Indicator	Format	Description
USB Digital Audio	Green	グリーン	PCM	PCM	44/48kHz
	Yellow	イエロー	PCM	PCM	88/96kHz
	Cyan	シアン	PCM	PCM	176/192kHz
	Magenta	マゼンタ	DXD	DXD	352/384kHz
	White	ホワイト	DXD	DXD	705/768kHz
	Green	グリーン	DSD	DSD	DSD64(2.8/3.1MHz)
	Yellow	イエロー	DSD	DSD	DSD128(5.6/6.2MHz)
	Magenta	マゼンタ	DSD	DSD	DSD256(11.2/12.4MHz)
	White	ホワイト	DSD	DSD	DSD512(22.6/24.6MHz)
	None	なし	-	-	No music playing

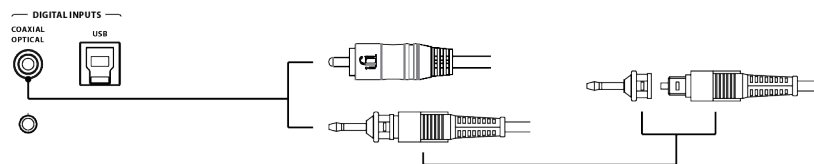
ヒント:

- iFi Retro Stereo 50 の DAC の設計は、数多の受賞歴を持つ iFi micro iDSD に基づいています。最高の音質を実現するために、Minimum Phase (44.1kHz-192kHz) と Bit-Perfect (352kHz 以上) フィルターを使用しています。
- Apple の機器に接続するには、Apple USB Camera Adapter が必要です。Android の機器に接続するには、OTG ケーブルと適切な OS が必要です。
- MAC OSX (10.6 以降) は iFi Retro をネイティブでサポートしています。
- MS Windows (XP 以降) の場合は、iFi Retro をコンピューターに接続しドライバー・ソフトウェアを以下からダウンロードしてインストールしてください:
- 最高の音質を得るには、コンピューターや再生ソフトウェアのボリューム・コントロールを常に 100% にセットしてください。

Blu-ray/DVD/CD プレーヤー、セットトップ・ボックス（ケーブルテレビのチューナーなど）、ネットワーク・ストリーマー

接続方法：同軸ケーブルまたは光ケーブルによるデジタル・オーディオ（SPDIF）接続

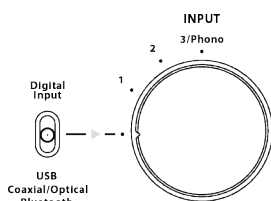
ステップ 1:



接続する機器に同軸デジタル出力端子があれば、その機器から iFi Retro Stereo 50 のインテリジェント・デジタル・オーディオ入力端子に同軸ケーブルで接続してください。

接続する機器に光デジタル出力端子があれば、同梱されているアダプターを使って、その機器から iFi Retro Stereo 50 のインテリジェント・デジタル・オーディオ入力端子に同軸ケーブルで接続してください。

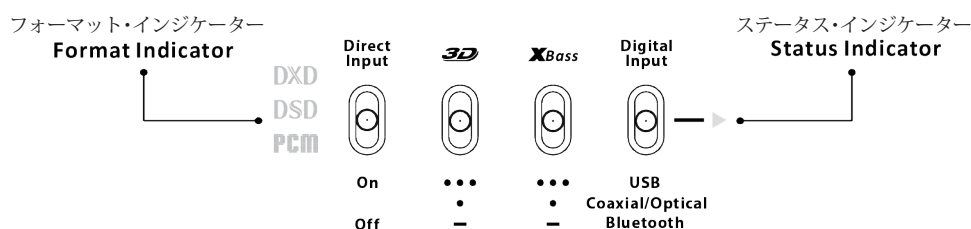
ステップ 2:



入力セレクターの「Digital Input」の「Coaxial/Optical」を選択します。

LEDステータス

入力されたデジタル信号のサンプリング・レートが LED で表示されます。



Input	Status Indicator	ステータス・インジケータ	Format Indicator	フォーマット・インジケータ	Description	詳細
SPDIF	Green	グリーン	PCM	PCM	44/48kHz	
	Yellow	イエロー	PCM	PCM	88/96kHz	
	Cyan	シアン	PCM	PCM	176/192kHz	
	None	なし	-	-	No music playing	

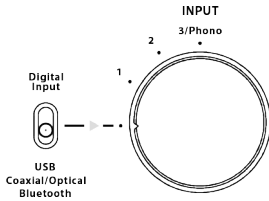
ヒント:

- インテリジェント Coax/Optical デジタル入力は、同軸デジタル信号と光デジタル信号を自動認識して、自動で切り替わります。
- 通常の Toslink 光ケーブル接続用に、Toslink Mini-Plug から Toslink へのアダプターが同梱されています。
- 接続する機器が同軸と光の両方の出力端子を備えている場合は、同軸ケーブルによる接続の方が一般に音質が良くなります。

ポータブル・スマートデバイス (iOS/Android)

接続方法: Bluetooth (ワイヤレス)

前もってペアリングされている機器の場合 ステップ 1:



入力セレクターの「Digital Input」の「Bluetooth」を選択します。

ステップ 2:

スマート機器の Bluetooth のスイッチを入れ、「iFi HQ(aptX) Audio」を選択して、20 秒以内に「Connect 接続」を押してください。

ペアリングされていない機器の場合

ステップ 1:

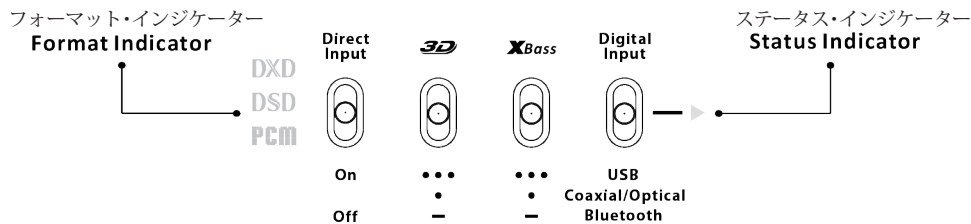
入力されたデジタル信号のサンプリング・レートが LED で表示されます。

ステップ 2:

ペアリング・ボタンを 1 秒間押し続けます。

ステップ 3:

スマート機器の Bluetooth のスイッチを入れ、「iFi HQ(aptX) Audio」を選択して、20 秒以内に「Connect 接続」を押してください。Bluetooth の状態は LED で表示されます。



Input	Status Indicator ステータス・インジケータ	Format Indicator フォーマット・インジケータ	Description 詳細
Bluetooth	Flashing Blue 明るいブルー	PCM	Not Connected
	Blue ブルー	PCM	Connected
	Blue/Red ブルー/レッド	PCM	Pairing

ヒント:

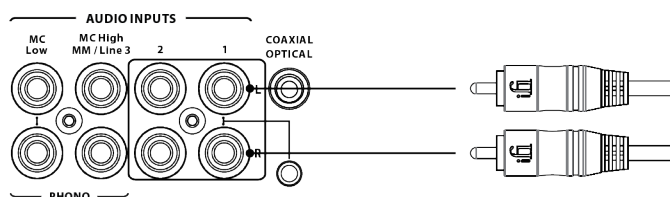
- aptX はワイヤレス・オーディオの最新技術で、Bluetooth 接続で CD 並の音質を可能にします。有名メーカー（たとえばソニー、サムスン、LG など）から発売されている Android スマートフォンは、ビルトインで aptX をサポートしています。aptX は、多くのノートブック・パソコンでも利用できます（たとえば Apple の MacBook Air、MacBook Pro、サムスン・ノートブックなど）。
- Bluetooth のシステムでは、電源の状態が次のようになっています：
ON → 自動接続（20 秒） → 自動ペアリング（5 分） → スリープ
- Bluetooth を選択する度に、Retro Stereo 50 は最後に接続された機器を 20 秒間「探し」ます。以前に接続された機器を見つけることができない場合には、5 分間オートペアリング・モードに入り、その後スリープ・モードに戻ります。
- スリープ・モード時には、スマート機器の「Connect 接続」を選択することによって、以前にペアリングした機器を iFi Retro Stereo 50 に接続することができます。
- スリープ・モード時に、以前にペアリングをしたことのない機器を接続するには、「Pairing ペアリング」ボタンを押すことによって iFi Retro Stereo 50 をペアリング・モードにする必要があります。
- iFi Retro Stereo 50 は、8 個までペアリングを保存することができます。
- スマート機器（電話やタブレット）も、USB 入力を使って iFi Retro Stereo 50 に接続することができます。iOS の機器では、Lightning から USB へ変換するアダプターが必要になります。Android の機器では、OTG ケーブルが必要になります。これらを用意した後の接続手順は、USB でコンピューターに接続する場合と同じです。
- スマート機器で DSD ハイレゾ音源を聴くには、特別なオーディオ再生ソフトウェア*（注 3）が必要です。

*（注 3）現在のところ、iOS の機器（iPhone と iPad）には、Hibiki と Onkyo HF Player を iTunes ストアで入手することができます。Android 用には、USB Audio Player Pro が互換性のある機器として動作します。

アナログ・オーディオ機器

接続方法: RCAケーブル

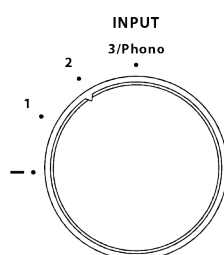
ステップ 1:



接続する機器のRAC出力端子から iFi Retro Stereo 50 のRCA入力端子にRCAケーブルで接続します。

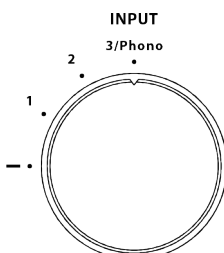
ステップ 2:

入力セレクトターの「1」または「2」を選択します。



ヒント:

- Input 3は、通常はターンテーブル（レコードプレーヤー）に接続するようにセットアップされています。しかし、背面のモード・スイッチを使って、この入力端子を6dBのゲインを持つライン入力に設定することができます。



- 6dB（固定）のゲインが余計に得られるということは、ビンテージ機器（ラジオチューナーやカセットデッキ）を接続する時に有用です。それらの出力電圧は、現代の2Vrmsではなく、昔の標準であった0.7Vrmsだからです。

ターンテーブル(レコードプレーヤー)

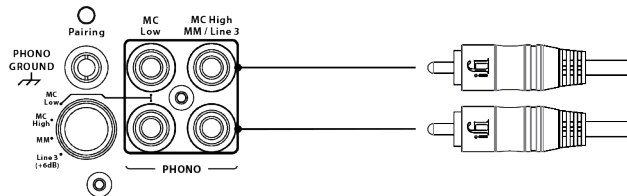
接続方法: RCAケーブル

ステップ 1:

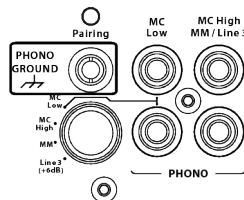
使用するカートリッジに応じて、入力電圧を確認して、iFi Retro Stereo 50 のモード・スイッチを設定します。

Cartridge rated output	Mode Switch	Gain(dB)	RCA connection	Diagram
<0.75mV	MC Low	62	MC Low	
0.75-3mV	MC High	50	MC High MM/Line 3	
>3mV	MM	38	MC High MM/Line 3	
Line	Line3 (+6dB)	6	MC High MM/Line 3	

ステップ 2:



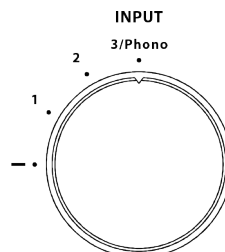
ターンテーブルの RCA ケーブルを iFi Retro Stereo 50 の Phono 入力端子に接続します。上のステップ 1 の図をご参照ください。



ターンテーブルから出ているアース・ケーブルを iFi Retro Stereo 50 の「PHONO GROUND」(アース端子)に接続します。

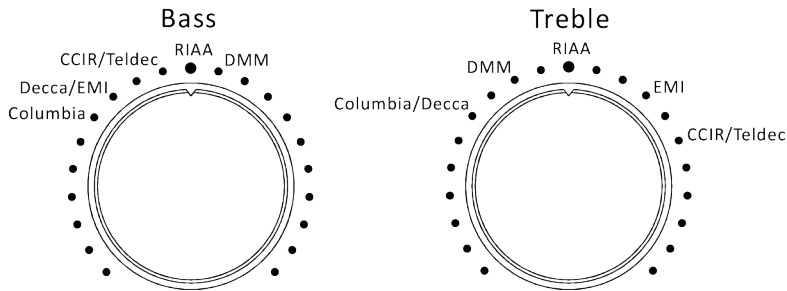
ステップ 3:

入力セレクターの「3/phono」を選択します。



・デフォルトのフォノイコライザーカーブは RIAA です。

・精密なトーンコントロール（それぞれ 10 クリック）が有効な場合は、デフォルトの RIAA イコライザー・カーブを以下の様々なカーブに変更できます。



注意：「-click」はダイヤルを左に回します。
「+click」はダイヤルを右に回します。

EQ	Bass	Treble
RIAA	Centre	Centre
CCIR/Teldec	-1 clicks	+5 clicks
Columbia	-4 clicks	-4 clicks
Decca	-3 clicks	-4 clicks
DMM	+1 clicks	-2 clicks
EMI	-3 clicks	+3 clicks

・モード・スイッチがライン入力（+6dB）に設定されている時は、RIAA イコライザー・カーブは適用されません。

Stereophonic Microgroove LP Records

表示名

RIAA
CCIR 56

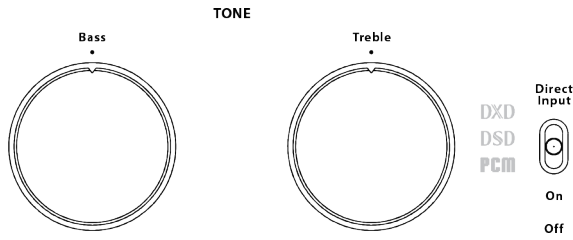
Columbia
Decca (FFSS)
RIAA (DMM)* (注4)
EMI

詳細

現代のステレオ再生用カーブ
1962年頃以前のヨーロッパ、東ヨーロッパ及び1975年頃以前のアジア
(例: Amiga, Eterna, Deutsche Grammophon, Melodiya)
Columbia LP stereo
Decca & London, Deutsche Grammophon, Archiv, Polygram, NAB, Philips, Argo
DMMのハードでメタリックなサウンドを補正
Angel Records, Manhattan Records, Narada, Caroline Distribution, Mute, IRS, Liberty, Statesideのレーベル(他にもあるかもしれません)

* (注 4) RIAA の「DMM (Direct Metal Mastering)」カーブは、標準的なイコライザー・カーブではありません。この AMR 独自の「カーブ」は、DMM 録音に広く見られる「輝かしい」、「メタリックな」エッジを補正するために特別に開発したものです。

トーン・コントロール



iFi Retro Stereo 50 は、 $\pm 8\text{dB}$ の調節が可能なスタジオ・グレードの精密トーン・コントロールを内蔵しています。このトーン・コントロール・システムは、「Direct」スイッチでバイパスすることができます。

ヒント:

- このトーン・コントロール・システムは、まったく透明な存在であるように作られています。このトーン・コントロールをニュートラルのポジションにしておけば、「Direct」スイッチを ON にしても OFF にしても、大きな違いは感じられないはずです。
- このトーン・コントロール・システムは、アナログ・レコードの再生時に様々なイコライザー・カーブを追加したい場合に使用することができます。詳細はターンテーブルの項目をご覧ください。

Direct Input

On = Direct On = トーン・コントロール・システムをバイパス

Off = Direct Off = トーン・コントロール・システムが有効

XBass System



- 最大の低域補正
(Retro LS3.5 をスピーカー・スタンドでご使用の際にお勧めします)
- 中程度の低域補正
(Retro LS3.5 を通常のセットアップでご使用の際にお勧めします)
- OFF

ヒント:

- XBass にも 3D Holographic Sound System にも、音にダメージを与える DSP は使用していません。最高品質のディスクリート部品を使用していますので、オリジナルの録音の状態が完璧に保持されます。オリジナルの音楽が持つ明晰性と解像度が保持されるのです。
- iFi Retro LS3.5 スピーカーとともに使用する場合は、XBass を次のように設定することをお勧めします。
 - iFi Retro LS3.5 スピーカーを広いスペースにスピーカー・スタンドに載せて設置する場合は「●●●」に設定してください。
 - iFi Retro LS3.5 スピーカーを卓上や棚に設置する場合は「●」に設定してください。
- iFi Retro LS3.5 スピーカーは、Retro Stereo 50 の XBass 機能を前提に、全体の周波数レスポンスを考慮して設計されています。ですから、最高の音質を実現するには、少なくとも「●」の設定を使用することをお勧めします。

3D Holographic Sound System (3Dホログラフィックサウンドシステム)



- 左右のスピーカーの間隔が狭い場合 (1.5 メートル未満)
- 左右のスピーカーの間隔が普通の場合 (推奨)
(Retro LS3.5 を通常のセットアップでご使用の際にお勧めします)
- OFF

ヒント:

- スピーカー用及びヘッドフォン用の 3D HolographicSound System は、ステレオ録音の過程における基本的な欠陥（空間と各楽器の関係が歪められて呈示される）*（注5）を矯正します。スピーカーにもヘッドフォンにも、それぞれ異なった形ではありますが（正反対という人もいます）、このシステムの効果があります。
- Retro Stereo 50 は、iFi の 3D HolographicSound マトリックス・アナログ信号処理という形で、ヘッドフォンとスピーカーの両方に必要とされる補正を実行します。補正は、スピーカーとヘッドフォンそれぞれ別々に、専用、最適化されています。この機能によって、スピーカーの場合には音場のフォーカスと明晰性が改善され、またヘッドフォンの場合には「頭の中に音場がある」という感覚が軽減あるいは除去されます。
- スピーカー用とヘッドフォン用の切り替えは自動です。スピーカーが使用されている時はスピーカー用の 3D HolographicSound が自動的に選択され、ヘッドフォンが使用されている時は（ヘッドフォージャックが差し込まれている時は）ヘッドフォン用の 3D HolographicSound が自動的に選択されます。
- 3D HolographicSound System は、音場を拡大して幅、高さ、奥行きを改善するのに使用することもできます。これによって、音楽を聴く喜びが増すのです。最適状態ではないスピーカーの配置を補正するのに使用することもできます。
- **スピーカー用 3D HolographicSound System**
 - Direct - 3D HolographicSound と同様の補正法を用いて録音された音源用（これはめったにありません）
 - 3D 補正のみ：通常の典型的な設置によるスピーカー用（例：通常のリビング・ルームに設置されたハイファイ・スピーカー）
 - 3D 補正及び 3D の拡張：狭い間隔で設置されたスピーカー用（例：卓上でコンピューターのモニターの両側に設置されたようなデスクトップ・スピーカー）
- **ヘッドフォン用 3D HolographicSound System**
 - Direct - 3D HolographicSound と同様の補正法を用いて録音された音源用（これはめったにありません）、あるいは補正機能を内蔵したヘッドフォン用
 - 3D 補正のみ：通常のヘッドフォン用
 - 3D 補正及び 3D の拡張：空間感が狭く感じられる音源やヘッドフォン用
- 上記のセッティング法はあくまでもガイドラインですから、ご自身の環境、録音、スピーカー／ヘッドフォンに合うように自由に試して、最適なセッティングを見つけてください。
- Retro LS3.5 と一緒に使用する際には、3D HolographicSound を次のように設定することをお勧めします。
 1. 左右のスピーカーの間隔が 1.5 メートル未満の場合は「●●●」に設定してください。
 2. 左右のスピーカーの間隔が 1.5 メートル以上の場合は「●」に設定してください。

*（注5）

1930 年代のステレオ録音の黎明期に、ステレオ録音の父と言われたアラン・ダウアー・ブルムレインが、ひとつの根本的な問題を記録しています。人間の頭の形状とサイズが原因で、ステレオ・セパレーションは低周波数帯域よりも高周波数帯域の方が良好だということです。低周波数帯域では、両耳の間でクロストークが生じるのです。

同様の問題は、1950 年代後期に、ステレオ録音をヘッドフォンで再生する際に、ベン・バウアーによって発見されています。しかしながら、ここでの問題は、2つのトランスデューサーが耳の左右に、あるいは耳の内部の左右に、分離して装着されるため、聴く人の頭の中に音場が詰まっているような感覚を生み出し、低周波数帯域が極度に分離して聞こえるというものでした。あとで考えてみると、これはブルムレインが記録している問題をそっくり裏返したものだということがはっきりとわかります。

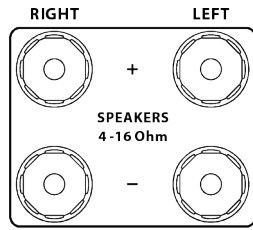
このことは 80 年（あるいは、ヘッドフォンに関して言えば 50 年以上）もの間知られていたのですが、この問題を補正しようとした録音はほとんどなく、また再生システムは皆無でした。そして、これを補正する研究もほとんどなされていないのです。

3D HolographicSound System は、スピーカーとヘッドフォン別々にそれぞれ補正を施すことによって（それぞれ異なる、正反対の補正が必要です）、上記の問題を補正しています。ですから、正確な音場を再現するには、少なくとも「●」に設定することをお勧めします。

スピーカー出力

接続方法: スピーカー・ケーブル

ステップ 1:



左側の LS3.5 スピーカーを iFi Retro Stereo 50 の LEFT に接続します。同様に右側のスピーカーを iFi Retro Stereo 50 の RIGHT に接続します。

ヒント:

- 通常はスピーカーを、置かれている棚や机に密着させないのが望ましいと考えられます。
- スピーカーを耳の高さに置き、2つのスピーカー間の距離とほぼ等しい距離を、聴く位置とスピーカーの間にとることをお勧めします。
- スピーカーと置き場所を密着させないために、以下のものが同梱されています。
 1. 滑り止めマット
 2. シリコンゴム脚
- お好みの方を選んで、密着を防いでください。シリコンゴム脚は、通常 LS3.5 スピーカーを Retro Stereo 50 と並べて置く際に使用します。これによって、アンプとスピーカーの高さが揃うので、見た目もフィーリングも、まとまりがよくなります。
- 2つのスピーカーの配置に応じて、XBass と 3D HolographicSound を試して、最良の低音を生み出すようにしてください。詳細は、XBass と 3D HolographicSound の解説をご参照ください。
- スピーカー・グリルは、音響的には透明です。磁石で取り付けられているので、取り外しも可能です。
- 同梱のスピーカー・ケーブルは、非常に高品質な銀メッキ OFHC 銅をテフロンでインシュレーションしたものでできており、最高のサウンドを生み出します。

ヘッドフォン出力



iFi Retro Stereo 50 には、異なるヘッドフォンに対応するために、2つのヘッドフォン出力（ノーマルとターボ）が装備されています。

- 3.5mm ソケット（ノーマルドライブ）：通常の感度（能率）のヘッドフォンと IEM（インイヤーモニター）をここに接続します。

- 6.3mm ソケット（ターボドライブ）：感度の低い（能率の低い）ヘッドフォンをここに接続します。

ヒント:

- ヘッドフォン・ジャックを差し込むと、iFi Retro Stereo 50 は自動的にスピーカー出力をミュートします。
- スピーカーによる再生とヘッドフォンによる再生では 3D HolographicSound System が異なりますので、ヘッドフォンが接続されている時は iFi Retro Stereo 50 は自動的にヘッドフォン用の 3D HolographicSound System に切り替わります。

製品仕様

Retro Stereo 50

DAC、フォノイコライザー付きステレオ真空管アンプ

ワイヤレス入力

Bluetooth (aptX): 1

デジタル入力

USB (DSD512/768kHz/2xDXD): 1

Coaxial (192kHz): 1

Optical (192kHz): 1

アナログ入力

Phono(MM/MC Low/MC High/Line 3): 1

Line 1: 1

Line 2: 1

3.5mm入力(Line 2と共通): 1

出力

スピーカー出力: 1

3.5mm ヘッドフォン出力: 1

6.3mm ヘッドフォン出力: 1

オーディオセクション

定格出力: > 25W* (大部分A級動作)

全高調波歪率: < 0.2% (@ 2.83V/1W)

出力帯域幅: 10Hz ~ 60KHz

周波数レスポンス: 10Hz ~ 80KHz

S/N比: > Amplifier 101dB (@ max output)

> Phono MM: 90dB(A)

> Phono MC: 80dB(A)

> 113dB(A)

Bass(100Hz) +/-8dB

Treble(10KHz) +/-8dB

アナログ信号処理(ASP) : 3D Holographic, XBass

フォノゲイン: 38, 50, 62dB

RIAA精度: <0.5dB**

真空管: 2 x ECF82; 4 x EL84X

デジタルセクション

PCM: 768/705.6/384/352.8/192/176.4/96/88.2/48/44.1kHz

DSD 512/256/128/64: 24.6/22.6/12.4/11.2/6.2/5.6/3.1/2.8MHz

DXD: 768/705.6/384/352.8kHz

Filters: Minimum Phase (PCM 192/176.4/96/88.2/48/44.1kHz)

Bit Perfect (DXD/PCM 768/705.6/384/352.8)

Analogue (DSD)

PCM 192/176.4/96/88.2/48/44kHz

その他一般

電源: AC 100V-240V

消費電力: 100W~0.1W (Standard mode)

寸法 (W x H x D): 268 x 146 x 226mm

重量: 5.8kg

輸入・発売

お客様サポート・お問い合わせ



TOPWING
Corporation

ENZO j-Fi LLC.
☎ 050-3631-5749